

H25. 4. 20

# 快・不快、好き嫌いには敏感

Dr.

和



「認知症ケア」シリーズ⑤



**長尾和宏** (ながお・かずひろ)  
東京医大卒業後、大阪第二内  
科入局。平成7年、尼崎市で「長  
尾クリニック」を開業。外来診療  
から在宅医療まで「人を診る、  
合診療を目指す。医学博士。近著  
「平穩死・10の条件」「胃ろう  
という選択、しない選択」はい  
もベストセラー。関西国際大学  
客員教授。54歳。

「認知症になったら、すべ  
てが分からなくなるのではし  
ょう?」 認知症って怖い病気で  
すね」。ある研修医が大まじ  
めにそう質問してきました。  
私は「認知症になっても決し  
て、すべてが失われるわけ  
ではないよ。快・不快や好き嫌  
いはよく分かるんだ。むしろ  
普通の人よりずっと敏感にな  
るからね」。このように答え  
ました。

「認知症になっても決し  
て、すべてが失われるわけ  
ではないよ。快・不快や好き嫌  
いはよく分かるんだ。むしろ  
普通の人よりずっと敏感にな  
るからね」。このように答え  
ました。

## 右脳と五感を意識し働きかけ

「認知症になっても決し  
て、すべてが失われるわけ  
ではないよ。快・不快や好き嫌  
いはよく分かるんだ。むしろ  
普通の人よりずっと敏感にな  
るからね」。このように答え  
ました。

「認知症になっても決し  
て、すべてが失われるわけ  
ではないよ。快・不快や好き嫌  
いはよく分かるんだ。むしろ  
普通の人よりずっと敏感にな  
るからね」。このように答え  
ました。

「認知症になっても決し  
て、すべてが失われるわけ  
ではないよ。快・不快や好き嫌  
いはよく分かるんだ。むしろ  
普通の人よりずっと敏感にな  
るからね」。このように答え  
ました。

れます。本人はいたって、の  
んきに生活されているのです  
が...

認知症という病気の本質は  
何だろうか? そんなことを考  
えながら、毎日、外来診療と  
在宅医療をしています。年を  
重ねると記憶力や理解力が低  
下することは、ある意味、人  
間の必然です。そのため認知  
症の初期・中期は「不安」で  
いっぱいになります。

認知症研究の第一人者であ  
り、長谷川式テストで有名な  
長谷川和夫先生は、一枚の絵  
を用いて認知症の本質を示さ  
れました。その油絵には暗闇  
の中、自分の足元だけにスポ  
ットライトが当たり、たがず  
む老人の姿が描かれていまし  
た。前も後ろも右も左も見え  
ないが、足元(＝現在)だけ  
は見える。それが認知症の本  
質だということです。

私たちは太陽の光や蛍光灯  
で周囲が見えるから安心して  
歩けます。しかし自分の足元  
しか見えなければ、不安でい  
っぱいになり、うまく歩けま  
せん。認知症とはそんなイメ  
ージです。

**長谷川式テスト** 精神科医の長谷川和夫氏が  
発案した認知症の簡易知能評価スケール。年  
齢、日時や場所の見当識、簡単な計算など9つの質問  
項目からなり、約10分でできる。30点満点で20点以下  
だと認知症が疑われる。

シンガー・ソングライター  
の河島英五さんの「酒と泪と  
男と女」という名曲は「忘れ  
てしまいたいことや」で始  
まります。人間は嫌な記憶を  
忘れることができないので酒  
を飲むという歌です。しかし  
認知症になれば、嫌な記憶か  
ら自然に解放され、ストレ  
スが減る良い側面もあるのだ  
はないでしょうか。

認知症は相対的に右脳優位  
になっていくと、長谷川先生  
から教えていただきました。  
左脳とは理屈の脳、右脳とは  
感性の脳。人間は左脳と右脳  
のバランスをうまく取りなが  
ら生活しています。記憶や認  
知機能は、主に左脳の機能で  
す。認知症とは、左脳機能の  
低下ですから、相対的に右脳  
が優位な状態になることで  
す。すなわち、難しい理屈は  
分からないが、快・不快や直  
感、味もすっかり分かってい  
るのです。

その場の雰囲気も右脳がし  
っかりキャッチします。認知  
症の人と接する場合、そのよ  
うに右脳を意識することが大  
切です。認知症の人の右脳に  
働きかけるケア、五感に働き  
かけるケアをもっと意識した  
いと思います。

ひようい